

中部国際空港海上アクセス — 高速双胴

1. 新しい中部国際空港への海上アクセス

近年我が国の中でも一番元気な中部地方に、2005年2月17日新しい国際空港が開港します。今回ご紹介する高速双胴旅客船「フェニックス」・「カトレア」は同型船で、中部国際空港への海上アクセスとして、三重県はじめ紀伊半島の皆さんの期待を一心に担って、津市が建造されました。

津市では、中部国際空港開港にあわせて『レッ津！夢みなと』プランを推進され、本船の建造とともに、空港まで40分というアクセスの利便性を活かせる海上アクセスターミナルの整備、世界に向けた紀伊半島の玄関としての機能を備えた港づくり、町づくりを進められています。

当センターでは、中部国際空港アクセスの中核として運航される高速双胴旅客船「フェニックス」・「カトレア」の基本計画・建造管理を担当したので、概要を紹介します。

2. 基本コンセプト

本船の基本計画を実施するに当たり、津市の『レッ津！夢みなと』プラン推進のコンセプトを反映させるとともに、元気な県として近年とみに発展著しい三重県へのビジネス客、熊野古道（伊勢路）を含む世界遺産「紀伊山地の霊場と参拝路」への観光客が、快適に利用できる国際空港アクセス船であることを基本コンセプトにしました。

この基本コンセプトに基づき、

- お客様にとって乗り心地のいい船（振動・騒音・動揺の低減）
- 欠航の少ない船
- 定時運航の出来る余裕のある船
- お年寄り、障害者に優しい船（交通バリアフリー法）
- 優美なシルエット

などに配慮しながら、基本計画を進めました。

基本計画では、双胴船タイプとともに、船体抵抗及び動揺軽減装置を採用することにしました。

3. 主要目など

基本計画に基づいて入札が実施され、建造造船所として(株)三保造船所に決定しました。

建造・詳細設計を進める過程で、津市、(株)三保造船所および当センターが緊張感ある打ち合わせを行い、基本計画を忠実に反映する検討を行いました。

その結果、船体抵抗及び動揺軽減装置として支柱付可動翼式水中翼を装備することとしました。

建造仕様書による主要目を、次に示します。

表-1 海上試運転結果

船名	施行月日	排水量	試運転最大速力
フェニックス	平成16年7月8日	83.3t	33.7kt
カトレア	平成16年12月14日	82.6t	33.8kt



旅客船「フェニックス」・「カトレア」 —

4. 海上試運転を終えて

海上試運転は、西宮防波堤マイルポストで施行し、次の結果を得ました。

航海速力（90％MCO、70％DW）の計測でも、建造仕様書を遙かに超える32kt以上を記録しました。

両船の海上試運転に際して特に注目した点は、船体抵抗及び動揺軽減装置とし

て採用した水中翼です。水中翼は、双胴の間の前部と後部に可動翼式のものを2翼設け、各速力において最適の航走トリムを維持します。さらに、旋回時においても傾斜角の軽減が図られ、快適な乗り心地を提供しています。

また、両船は、双胴の船形形状を工夫することによって、引き波を少なくすることが出来ました。

5. おわりに

両船の建造に当たって、『レッ津！夢みなと』プラン推進の情熱を注ぎ込まれた津市の皆様そして多数の高速双胴旅客船建造のノウハウを遺憾なく注ぎ込まれた三保造船の皆様が誠意をもってご尽力いただいたことを付記します。

表－2 主要目など

主要目		主要設備・装備	
航路	津松坂港（賢崎地区）～ 常滑港（空港地区）	特別室	定員10名
航行時間	1.5時間未満	旅客乗降用ランブドアー	油圧駆動
航行区域	平水区域	電動カート用乗り込み橋	油圧駆動
長さ（全長）	31.45m	監視カメラ装置	船体航行姿勢監視機能付き
長さ（登録）	29.69m	バリアフリー設備	
幅（型）	8.60m	車椅子スペース（2台分）	
深さ（型）	2.69m	バリアフリー椅子（9人分）	
計画満載喫水（型）	1.03m	バリアフリートイレ	
総トン数	125トン	バリアフリー通路（120mm以上）	
船質	軽合金	出入りロスロープ装置	
航海速力（90％MCO,70％DW）	30.0ノット以上	手摺り（点字表示付）、誘導ブロック	
航続距離	300海里以上	点字案内板、触知案内板	
旅客定員	110名	音声案内装置	
主機関	V型1,320kW×2基		

